

## 第二次世界大戦の真相 その1

2680 地区 PDG 田中 毅 (尼崎西)



1929年、ニューヨークのウォール街で始まった株価暴落に端を発した世界大恐慌によって、日本も深刻な昭和恐慌に陥り、東北地方を中心に農家は特に厳しい状況に置られました。1931年に、日露戦争によって日本が権益を得、更に第1次世界大戦によってその権益が延長されていた、南満州鉄道の柳条湖が爆破されたことを契機に満州事変が起こりました。

1932年には、満州国が建国宣言を行い、愛新覺羅溥儀が皇帝に擁立されました。蒋介石政権は、満州国は日本の傀儡政権だとして、独立は無効だとして国際連盟に訴えました。国際連盟はリットン調査団による査察を行って、中国の言い分を認めたため、日本は国際連盟から脱退して、国際的に孤立しました。1937年に、盧溝橋事件が起こり、それは支那事件に発展して、ずるずると拡大して行きました。日本軍は南京まで進攻しましたが、それに伴って、日本を取り巻く国際情勢は、ますます悪化して行きました。

当時、欧米列国は、東南アジアのほとんどの国を植民地化しており、後発国の日本が割り込む余地は、第1次世界大戦で権益を得た、支那大陸しかありませんでした。

1939年、ヨーロッパで第2次世界大戦が始まり、1940年には、日独伊三国同盟が締結されましたが、日本は隠忍自重して、参戦しませんでした。イギリスのチャーチル首相とアメリカのルーズベルト大統領は、オランダと支那に働きかけて、ABCD包囲陣によって日本を経済封鎖し、鉄鉱石や石油の輸入を完全に遮断しました。

更に、1941年11月26日には、アメリカはハル・ノートを突きつけました。ハル・ノートには、支那大陸や仏印からの即時撤退、日独伊三国同盟の破棄、支那の反日蒋介石政権の承認等々、日本が受諾できない要求ばかりが書き込まれた最後通牒でした。

大きな犠牲を払って、日清戦争、日露戦争、第1次世界大戦で克ち得た全ての利権を放棄して、明治維新直後の日本に戻れという、屈辱的な内容でした。何とかして日米交渉を円満理に進めたいと考えていた日本も、交渉継続を断念せざるを得ない最後通牒でした。

日本政府は12月1日の御前会議で、米英両国との開戦を決定しました。資源という生命線を絶たれた上に、大和民族としての尊厳を傷つけられた日本は、太平洋戦争に突入せざるを得ませんでした。

1941年12月8日、日本の連合艦隊はアメリカ海軍の基地、ハワイの真珠湾を攻撃して、アメリカ太平洋艦隊に大打撃を与えましたが、たまたま、米空母が湾内にいなかったことが、後半戦におけるアメリカを優位にさせる原因になりました。

開戦の30分前に米国務省に国交断絶の通告を渡すことになっていましたが、ワシントンの日本大使館の怠慢によって、それが55分遅れてしまいました。ルーズベルト大統領はこのミスを最大限利用して、日本は宣戦布告なしの奇襲攻撃をした卑劣で悪辣な国であると国内向けにプロパガンダすることによって、排日感情を煽りました。

タイはこの戦争において日本側に付いて、米英に対して宣戦布告をしています。日本は東南アジアの国々に対して、欧米の植民地から解放して大東和共栄圏を作ることを表明していましたから、現地の住

民からはほとんど抵抗を受けずに侵攻することができたので、大戦当初の日本軍は連戦連勝で、太平洋上の島を次々と占領していきました。ジャワ、スマトラ、ボルネオ、フィリピンを手中に入れて、マレー半島に侵攻して、1942年にはイギリスが難攻不落と豪語していたシンガポールが陥落しました。

歴史には、「もしも」という仮定を持ち込むことはできません。しかし、シンガポール陥落直後に持ち込まれた、停戦案に日本が同意していたら、どうなっていたかを、想像することも自由です。

台湾と朝鮮と千島列島と南カラフトと当時日本が委任統治していた南洋諸島に加えて、アリューシャン列島とハワイは日本の領土になっていたはずで、さらに満州国というバッファーを置いて、支那は日本の植民地に、そして東南アジアの諸国は日本の支援を受けて独立国になっていたはずで、当時の日本の国策であった大東和共栄圏が完成して、世界最大の海洋国家になっていたはずで、

(2018年4月20日)

## 第二次世界大戦の真相 その2

2680 地区 PDG 田中 毅 (尼崎西)



ミッドウェイ海戦に敗れたことが、戦局を大きく変えました。この作戦に参加していた日本の空母は、4隻、太平洋艦隊のアメリカ空母は3隻でした。ミッドウェイ海戦の制空権争いでは、アメリカの戦闘機50機、雷撃機70機を撃墜して、完全に勝利を収めながら、自らの空母の所在位置をアメリカ側のレーダーによって把握されていたこと、護衛の戦闘機が全て出撃していたこと、艦内の格納庫にミッドウェイ島を攻撃するために大量の爆弾を積んだ攻撃機を収容していたために、対空レーダーを装備していなかった日本艦隊は、敵の急襲に対処できず、自爆の連鎖を起こして、全ての空母を失って、結果的に惨敗しました。

これ以降戦局はアメリカに大きく傾き、局地的に勝つことがあっても、撤退の連続となります。なおこの海戦でアメリカの主力となった空母は、真珠湾でみすみす取り逃がした空母でした。

もしも日本がミッドウェイ海戦で勝利を収めていれば、アメリカ陸軍はヨーロッパの兵力を、アメリカ西海岸に回して本土防衛をする必要があり、ドイツがイギリスを破ってヨーロッパの覇者になっていた可能性も否定できません。

世界一強いと自他ともに認めていた日本軍が、なぜ負けたのでしょうか。戦争の後半は物量の差であることは明白ですが、敗戦の引き金になったミッドウェイ海戦は、優れたレーダーを備え、暗号探知機能に優れたアメリカのIT技術に負けたのです。日本の機密情報はアメリカに筒抜けでした。情報の取り扱いに弱いという日本の情報音痴は現在も続いています。

1944年、サイパン島の日本軍が玉砕して、日本全土がB25とB29爆撃機の行動範囲に入りました。

同年フィリピンのレイテ湾の戦闘で、初めての神風特攻隊が、沖縄戦では大量の特攻隊が出撃しました。日本が失った特攻機は2800機、アメリカ軍の損害は戦艦10隻、空母9隻、巡洋艦5隻、駆逐艦118隻、その他艦船40隻とされています。

1945年4月、戦艦大和と連合艦隊の残存艦9隻は、航空機の援護もなく、帰りの燃料も積まずに、沖縄に向かいました。沖縄の浅瀬で座礁して、艦砲射撃によって防衛をする海上基地になる予定だったとされています。しかし、途中東支那海で米軍機350機の猛攻を受けて大爆発を起こして沈没してしまいました。

アメリカ軍はB29を用いて、日本各地の大都市を無差別爆撃しました。1945年3月の東京大空襲では、10万人の市民が殺されました。木造住宅が燃えやすいことに目をつけて、大量の焼夷弾を上空から、無差別にばらまいて、大量の非戦闘員を火あぶりにして虐殺しました。なお、東京には106回、名古屋には63回大阪には8回の空襲が行われました。

日本が降伏寸前であることを知りながら、広島にはウラニウム爆弾、長崎にはプルトニウム爆弾を落としました。広島では11万人、長崎では7万人以上の人々が犠牲になりました。健康な男子は出征して、町に残っていたのは老人と女・子供ばかりでした。無駄な死者を出さずに、戦争を早く終わらせるために、原爆を使ったというのは勝者の詭弁であって、原爆の威力を人体実験したいという欲望の結果であ

り、虐殺のための虐殺であることは間違いありません。

ユダヤ人の大虐殺がヒットラーの犯罪ならば、日本における民間人の大虐殺はアメリカ人が犯した大罪なのです。国際裁判所で裁かれるべきことは、アメリカ人による日本の民間人大虐殺です。「勝った国のいうことがすべて正しい」このルールは現在も引き継がれています。

ポツダム宣言受諾によって、第2次世界大戦は終了しました。しかしポツダム宣言によって無条件降伏したのは日本軍であり、日本国ではないにも関わらず、マッカーサー元帥はまるで日本が無条件降伏したかのように、占領政策を行いました。

日本国憲法は1946年に公布され、1947年5月に施行されました。GHQが自ら英文で原案を作成して政府に提示したと言われていています。当時の日本は占領下にあり、主権がありませんでした。主権のない日本に、主権の発動である憲法が制定されるはずもなく、日本国憲法は進駐軍が植民地・日本の統治を都合よく行うために制定した占領政策に過ぎないのです。現在の憲法は、国民の総意に基づくものではありませんから無効です。従って姑息的な憲法改正ではなく、現行憲法をいったん失効した後に、新しい憲法を制定するのが筋です。

(2018年4月27日)